

農林水産部

仕事の窓



食肉センター全景

沖縄北部特別振興対策事業の一環として、名護市において平成十二年度から整備を進めていた「名護市食肉センター」がこのほど完成し、去る六月二十一日同市二十一世紀の森屋内運動場において、細田沖縄及び北方対策担当大臣、北村農林水産副大臣をはじめ、成田沖縄総合事務局長、稲嶺沖縄県知事、岸本名護市長等、多数の関係者が出席して落成式が開催されました。

畜産は北部地域における重要な産業であり、同地域における農業産出額の四割を畜産が占めています。中でも豚の飼養頭数は県内の四割を占めており、今後この傾向は続くものと思われます。

同センターの総事業費は三十億五千万円で、新たな衛生基準をクリアすると畜・解体処理室、枝肉冷蔵庫、部分肉加工室等の施設が整備され、処理能力は一日あたり豚六百頭、山羊八頭、牛五頭で、消費者が求める安全で品質の高い食肉の生産や流通に果たす役割は大きなものがあります。

式典に先立ち、施設案内や関係者によるテープカットが行われた後、落成式典・祝賀会が催され、細田大臣、北村副大臣、稲嶺知事からは来賓として祝辞があり、その中で細田大臣は「同センターは沖縄の安全・安心な食を担う施設であります。畜産は北部の重要な産業であり、豚や山羊の生産振興や雇用確保に寄与するものとして大いに期待しております。」と述べられました。

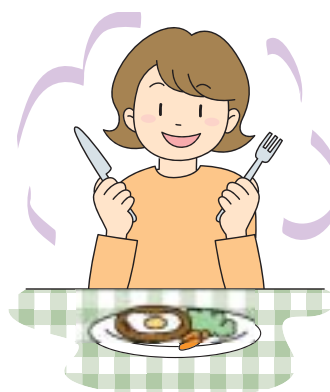


テープカットの様子



祝辞を述べる細田大臣

また、北村副大臣は「同センターは、沖縄県における県産食肉の供給基地として、消費者へ安全で安心できる食肉を提供することにも、沖縄県の畜産を支える重要な役割を担うものとして大いに期待いたしております。」と、同センターへの期待を述べられ、関係者とともに名護市食肉センターの完成を祝いました。



北部振興事業で名護市食肉センターが完成